

社会教育情報誌

「きばっど」

南薩の社会教育



平成26年2月25日発行
南薩地区社会教育振興会

平成25年度社会教育関係者・団体表彰

1 社会教育委員関係

【全国社会教育委員連合会表彰】

- ・ 関 利 治（枕崎市）

2 P T A 関係

【優良P T A 文部科学大臣表彰】

- ・ 枕崎市立桜山小学校 P T A（枕崎市）

【日本P T A 全国協議会表彰】（特別表彰）

- ・ 馬場畑 末治（指宿市）

3 公民館関係

【第 66 回優良公民館表彰】（文部科学大臣表彰）

- ・ 丹波校区公民館（指宿市）

【全国公民館連合会「永年勤続職員表彰」】

- ・ 新澤 京子（南さつま市津貫地区公民館 公民館主事）

【県公民館連絡協議会職員表彰】

- ・ 中田 純子（指宿市今和泉校区公民館主事）
- ・ 崎向 道代（元 枕崎市別府地区公民館主事・嘱託員）
- ・ 有村 忍（南さつま市長屋地区公民館主事）
- ・ 田畑 スミ子（南さつま市小湊地区公民館主事）

4 子ども会関係

【緑綬褒章】

- ・ 南さつま市子ども会育成連絡協議会（南さつま市）

【県子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・ 山川ジュニア・リーダークラブ「m t. スヌーピー」（指宿市）
- ・ 西野 千洋（南九州市）

【県優良少年少女団体・地域高校生クラブ等表彰】

- ・ 田畑子ども会（枕崎市）
- ・ 柿本子ども会（南さつま市）
- ・ 赤崎・山脇仲良し子ども会（南九州市）

【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・ 下園子ども会（枕崎市）
- ・ 下原ポプラ子ども会（指宿市）
- ・ 津貫校区子ども会育成連絡協議会（南さつま市）
- ・ 松山校区子ども会育成連絡協議会（南九州市）
- ・ 仁田尾 嘉和（南九州市）

受賞おめでとう
ございます



5 社会教育振興会関係

【地区社会教育振興会表彰】

- ・ 火の神乙女太鼓「爽」（枕崎市）
- ・ 魚見校区公民館（指宿市）



6 文化財関係

【県文化財功労者表彰】

- ・ 山崎 盛隆（枕崎市）

7 「少年の主張鹿児島県大会」

- ・ 優良賞 大田 葉月（指宿市立開聞中学校 1 年）「本の未来教室」

8 地域が育む「かごしまの教育」県民週間ポスター原画・標語

【ポスター原画】

- ・ 学校賞 指宿市立川尻小学校
- ・ 優秀賞 西元 姫羽（指宿市立川尻小学校 1 年）
- ・ 特選 寶代 陸人（南九州市立青戸小学校 6 年）
- ・ 特選 神園 実玖（枕崎市立枕崎中学校 3 年）
- ・ 特選 室屋 有香（指宿市立南指宿中学校 3 年）
- ・ 入選 上谷 喜竜（指宿市立池田小学校 2 年）
- ・ 入選 西村 孔汰（南さつま市立津貫小学校 5 年）

【標語】

- ・ 入選 横村 ひかり（南九州市立宮脇小学校 2 年）
- ・ 入選 井上 朝陽（南九州市中福良小学校 2 年）
- ・ 入選 高吉 祈（南九州市立粟ヶ窪小学校 4 年）
- ・ 入選 中村 俊也（指宿市立柳田小学校 5 年）
- ・ 入選 前野 杏佳（南さつま市金峰中学校 3 年）

9 「家庭の日」絵画・ポスター・標語表彰

【絵画】

- ・ 最優秀賞 石本 愛美莉（指宿市立柳田小学校 3 年）
- ・ 優秀賞 笹山 楓太（指宿市立丹波小学校 4 年）
- ・ 努力賞 吉本 海和（南九州市立川辺小学校 3 年）

【ポスター】

- ・ 優秀賞 杖立 理子（指宿市立丹波小学校 5 年）

【標語】

- ・ 優秀賞 肥後 愛翔（南さつま市立小湊小学校 1 年）
- ・ 優秀賞 小湊 柊花（枕崎市立立神小学校 5 年）
- ・ 努力賞 伊瀬知 優花（南九州市立宮脇小学校 1 年）
- ・ 努力賞 永山 友梨（南九州市立宮脇小学校 6 年）
- ・ 努力賞 山口 明日香（枕崎市立立神中学校 3 年）

10 県PTA連合会「たのしい子育てコンクール」

【一般の部】

- ・ 優秀賞 松田 浩子（南九州市立松ヶ浦小学校 P T A）



家庭の教育力の向上



地区PTA連絡協議会総会・役員研修会

5月31日（金）に南九州市知覧文化会館において、地区PTA連絡協議会総会と役員研修会が開催されました。総会には20名が出席して、平成24年度の事業報告や平成25年度の基本方針・事業計画・予算等について協議されました。

総会終了後のPTA役員研修会は、189名が参加して実施されました。研修Ⅰでは、地区PTA連絡協議会事務局が本年度の努力点等について説明しました。研修Ⅱでは、鹿児島県民大学中央センター所長の北之園千春氏が「子どもに本を読ませる営み」の演題で講演をされました。

「子どもの読書活動は、子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生き抜く力を身に付けていく上で欠くことができないものである」ということをこれまでの経験を交えて力説されました。子育て真っ最中であるPTA会員に大きな示唆を与える研修会でした。



講演の様子

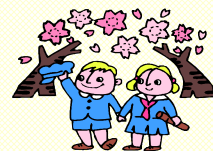
地区PTA指導者研修会

7月2日（火）に南九州市知覧文化会館において、地区内のPTA会員197名が出席して開催されました。研修Ⅰは、「PTA活動・家庭教育の充実」についての講話、研修Ⅱは「家庭教育に期待すること」についての講話、研修Ⅲは『「KYT」活動を通した安全教育のススメ』、研修Ⅳは、鹿児島県レクリエーション協会指導者の神之門透氏に「PTAの活動で役立つレクリエーション」の実技をしていただきました。すべての研修内容が、明日からのPTA活動に役立つ内容であり、出席者は意欲的に研修に取り組んでいました。



レクリエーションの研修の様子

地区PTA母親研修会



11月19日（火）に南さつま市民会館において、小・中学校、高校、特別支援学校から185名の母親等が参加して開催されました。開会行事の後、30のグループに分かれて「家族の一員としての役割の明確化」「地域全体で支える家庭教育（地域との関わり）」という二つのテーマで情報交換会を行い、参加者から家庭で実践している具体的事例等が出され有意義な情報交換会になりました。

講演は、鹿児島女子短期大学名誉教授の福司山エツ子氏が「食育と家庭」という演題で、食習慣の変化や食事が子どもの成長に重要な役割を担っていることを具体的な事例をあげての講演でした。さっそく明日からの家庭教育やPTA活動に役立つ内容であり、有意義な研修会でした。



講演の様子



県PTA活動研究委嘱公開指宿大会

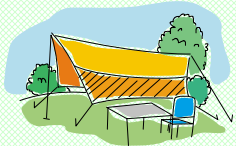
12月1日（日）に指宿市民会館において、PTA関係者等627名が参加して盛大に開催されました。「子どもとのふれあいや体験的な活動を通して、子どもたちの生きる力を育むPTA活動はどうあればよいか」をテーマに活動発表が行われました。

今和泉小学校PTAは、「遠泳大会」や「PTAバザー」、「全校選書会」等の活動発表でした。西指宿中学校PTAは、「奉仕作業」や「登校指導」、「学級対抗バレー・親子バレーボール大会」等の活動発表でした。北指宿中学校PTAは「おやじの会（父魂会）」の活動を中心にした発表でした。どの発表も今後のPTA活動に大いに参考になるものでした。

講演は、ソプラノ歌手の加治屋園子氏による「歌ひとすじに～父母と共に歩んだ夢への挑戦～」と題した講演であり、夢に向かって努力されたことに深く感銘を受けました。



活動発表の様子



体験活動の充実



地区社会教育委員研修会

10月4日（金）に枕崎市市民会館で地区内の各市社会教育委員や行政関係者39名が参加して開催されました。全体会では南さつま市子ども会育成連絡協議会会長の瀬戸敏典氏が「南さつま市の緑綬褒章受章報告と活動発表」を行いました。その後、「関係団体と連携した体験活動の推進と社会教育委員の役割」というテーマで、4グループに分かれて研究協議を行いました。

まず、各市の体験活動の取組状況を発表した後、質疑応答や意見交換を行いました。どのグループも体験活動の重要性や今後の各市における取組の在り方等について活発な意見交換がなされました。



グループ協議の様子

地区ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会

《活動内容》

○1日目

【仲間づくりリレクリエーション】
【危険予知トレーニング（KYT）】
【しゃべり場】【キャンプファイヤー】
など

○2日目

【創作活動】【スポーツ活動（ドッジボール）】など

8月10日（土）・11日（日）に薩摩川内市立少年自然の家において南薩地区と北薩地区の合同で開催されました。南薩地区からは、中・高校生や育成者等39名が参加し、北薩地区の参加者を含めた合計91名で開催されました。

初めて出会った参加者がほとんどでしたが「仲間づくりリレクリエーション」や「しゃべり場」「キャンプファイヤー」等の活動を通して徐々に交流が深まっていきました。参加者は今後の自分の生活や所属団体の活動の在り方等について振り返って考える良い機会になったようです。



グループ紹介の様子

地区子ども会大会, 育成者・指導者研修会



6月23日(日)にサン・フレッシュ枕崎及び枕崎市立立神中学校体育館において、地区内の子ども会会員や子ども会育成者・指導者等の308名が参加して開催されました。全体会では、田布川子ども会(枕崎市)、下原ポプラ子ども会(指宿市)、津貫校区子ども会(南さつま市)、松山校区子ども会(南九州市)の子ども会の代表が活動発表を行いました。その後、子ども会員と育成者・指導者に分かれて研修を行いました。子ども会員は、立神中学校体育館で12グループに分かれてニュースポーツを体験し、他市の子どもたちと楽しく交流を深めていました。

育成者や指導者は、「本物との出会いと体験活動」という演題で鹿児島水産高等学校教頭の岸下純弘氏の講演がありました。体験活動の大切さについて具体的な事例をあげての講演であり、大変有意義な研修会になりました。



ニュースポーツの体験



地区子ども会ジュニア・リーダー研修会

12月22日(日)に指宿市中央公民館において地区内の中・高校生34人が参加して開催されました。活動1は、「身体を動かしてグラフを作ろう」というテーマで、鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター教授の土田理先生にレクリエーションを指導していただきました。初めて体験する子がほとんどで、最初はもたついていましたが、次第に慣れて楽しく活動していました。

活動2は、「地元の食材を活用した昼食づくり」というテーマで、最初に「指宿市の小牧そば」の由来を学習しました。その後、実際に「そば打ち」や「そばつゆ作り」に挑戦しました。昼食は試食をしました。自分たちで作った「小牧そば」の味は格別おいしかったです。



そば打ちの体験

活動3は、四つのグループに分かれて、それぞれの所属する団体やクラブ等についての活動発表や情報交換をしました。この研修会を機に、なお一層、地域の活動に取り組んでくれることを期待しています。



人権教育の充実



地区社会教育・文化財・社会体育行政研修会

4月26日（金）に南九州市颯娃文化会館において、地区内の各市教育委員会社会教育（生涯学習）・文化財・社会体育の行政担当者等の64名が参加して開催されました。全体会では「平成25年度の県及び地区の重点施策」について南薩教育事務所から説明を行いました。その後、「社会教育」「文化財」「社会体育」の3分科会に分かれて研究協議を行いました。

講演は、県教育庁人権同和教育課長の山下守氏が、「人権問題についての正しい理解と認識 ～教育行政職員として～」という演題で講演され、行政担当者として、また、一人の人間としての在り方に大きな示唆を与えていただき、有意義な研修会となりました。



講演の様子

地区自治公民館経営研究会・人権教育ブロック別指導者研修会

9月6日（金）に南九州市川辺文化会館において、地区内の各市自治公民館関係者、各市条例公民館関係者、各市社会教育関係者等287名が参加して開催されました。事例発表は、南さつま市片浦自治公民館長の坂上広美氏が「心豊かでたくましい子どもを地域ぐるみで育てる自治公民館活動の在り方」というテーマで「片浦お伊勢講祭り」の事例を中心に発表されました。研究協議では、行事の継承方法や後継者の育成について活発な意見交換がなされました。

研究協議の後、鹿児島県教育カウンセラー協会代表の石塚勝郎氏が「共に生きる心を ～わけへだてなく～」という演題で講演されました。人権問題は、私たちにとって、最も身近な自分自身の問題であり、相手の立場に立って、お互いの良さを認め合いながら、共に生きていくということが大切であると強調されました。



講演の様子



文化財の保存・活用



地区文化財保護審議会委員研修会

6月20日（木）に指宿市山川図書館において、県文化財保護指導委員や各市の文化財保護審議会委員・文化財行政担当者等37名の参加者で開催されました。午前中は、「文化財の指定の在り方と文化財の活用」というテーマでの事例発表と4グループに分かれてのグループ協議を行いました。どのグループも文化財の保存や活用等について活発な意見交換がなされました。

午後は、県教育庁文化財課から「本年度の文化財保護行政の重点施策等について」の指導講話の後、指宿市の鰻池周辺の文化財について「うなぎマール会」の方々に案内していただきました。地区内の文化財保護指導委員にとって有意義な研修会になりました。



鰻地藏板碑の視察



地区「指定文化財」巡回視察

9月26日（木）に南さつま市において、地区内の各市文化財行政担当者や県文化財保護指導委員、南薩教育事務所職員等の17名が参加して実施されました。毎年、地区内の教育委員会が管理している指定文化財の保護・活用の実態を把握し、個々の課題について共同研究を行う目的で実施しているものです。

本年度は、南さつま市の指定文化財等を視察しました。主な場所として、旧鰻坂家住宅、六地藏塔、竹田神社周辺史跡、坊津歴史資料センター輝津館（所蔵品）、鹿児島県のソテツ自生地、ヘゴ自生北限地帯、大浦町の疱瘡踊り等を視察しました。文化財の保存等について考えるよい機会になりました。



吉見家と日新祠堂の視察

各市の 社会教育事業の紹介



南さつま市の取組

南さつま学友寮

一通学型宿泊体験学習一

1週間、宿泊しながら小学校に通学する「南さつま学友寮」を、市内全域の小学5・6年生を対象として6泊7日で実施しました。

家庭を離れ、異年齢集団による宿泊生活をしながら通学をするという体験の中で、仲間と助け合い励まし合いながら、不自由なことを乗り越えることで「新しい自分との出会いを探す」という目標を掲げ実施しました。

主な研修としては、〈キャンドルサービス〉、〈家への手紙〉、〈家からの手紙〉、〈軽音楽鑑賞会〉、〈南さつま音頭に挑戦〉などを行いました。特に、〈家からの手紙〉では、家族との手紙のやり取りをする企画もあり、家族からの手紙を涙ぐみながら読んでいる子もいました。

また、途中体調を崩し、自宅に一時帰宅をした子どもも、快復すると寮へもどってきてくれ、最後は全員そろっての退所式をすることができました。最終日の反省会の時間には、5年生のほとんどが来年もまた参加したいと、初日の時とは打って変わって活気のある表情で作文に筆を走らせていました。



バスで元気に登校



打ち解け合う子どもたち

図書館・読書活動



夏休みお楽しみ会



読書ボランティアグループ及び読書指導者等研修会

南さつま市立図書館では、市内の読書ボランティアの方々と連携を図りながら、様々な活動を行っています。

職員及びボランティアの2名1組で幼稚園や保育園等へ出向き読み聞かせ等を行う、「おはなし宅配便」や、中央・坊津・金峰の各図書館で定期的に行われている「おはなし会」、さらに「こどもの読書週間」や夏休み・冬休み等に行う「おはなし会」等にも多数協力していただいています。また、保健課主催の「6～8カ月児健診」時にブックスタート事業を盛り込み、ボランティアによる絵本の手渡し及び相談を行っています。

毎年2月には、読書活動の視野を広げるため、講師を招いて、中央図書館主催による読書ボランティアグループ及び読書指導者等研修会を実施し、各自のスキルアップに努めています。



枕崎市の取組

自然の中で遊びを満喫

～金山わんぱく塾の取組～



甌穴に飛び込む様子

もは、川の水の冷たさや水の流れを恐がり、最初はおそろおそろ川に入っていたものの、あっという間に仲間と川の中でじゃれ合っていました。

思い切り川遊びで体を動かした後の昼食は、子どもたちが獲った魚やエビをお母さん方が調理し自然への感謝の気持ちを込めて親子でほおばりました。これもこの活動の大きな目的の一つです。この日参加した子どもたちは、自然の中での遊びを満喫して、大満足の様子で家路につきました。

金山わんぱく塾は、地域の恵まれた自然や身近な素材を生かした遊びを子どもたちに体験してもらおうと、平成18年から金山地区公民館長の関利治さんを塾長として活動しています。金山小学校区の子どもたちを対象にしての月1回程度の活動は、水鉄砲や竹とんぼなど昔の遊び道具を作って遊んだり、地元の方に昔話を聞かせてもらったりするなど地元の素材や人材を生かした活動をしています。

金山小学校は平成26年3月末で閉校することになっていますが、「子どもたちがいる限り、金山わんぱく塾は活動を継続していく予定だ」と塾長の関さんは力強くおっしゃっています。

全児童数20名の金山小学校区を流れる滑川。この普段は静かな川に、8月11日(日)、金山わんぱく塾の子どもたちの賑やかな歓声が響きました。今年は金山小学校の児童や同校の卒業生のほか、金山小学校区外の児童も加わり、例年以上に賑やかな川遊びになりました。参加した子どもたちは、泳いだり、甌穴に飛び込んだり、エビや魚を捕ったり、魚釣りをしたりと川遊びを満喫しました。普段、子どもたちだけでの川遊びは禁止されているため、この日ばかりは思い切り川遊びを楽しもうと子どもたちの目は輝いていました。初めて参加した子



川遊びを満喫する子どもたち

わが家の逸品展

南浜館の年明け早々の恒例行事として開催しており、ここ数年は「枕崎の文化財展」と交互に開催しています。最近では市民から寄せられる「お宝」が少なくなり、職員は、開催に向けて「お宝」探しに大変苦勞しています。市民から何も寄せられなかった一昨年と違って、今回はエピソードとともに、いくつかの「お宝」が寄せられました。そのいくつかを紹介すると、写真①は北アフリカのリビアの首都トリポリ港外の^{しゅんせつ}浚渫工事の際に発見されたという壺で、古代地中海沿岸でワインやオリーブオイル等の交易用に使われていた「アンフォラ」といわれる壺です。

また、写真②は、アラブ式の水差しで同じくリビアから持ち帰ったものです。このほかにも、サハラ砂漠から持ち帰った木の化石「珪化木」や貝の化石、海中から引き揚げた深海松（レインボーコーラル）、米国から持ち帰った初期のポラロイドカメラなど、船乗りの方が多い本市ならではの「お宝」が目を引きました。



【写真①】



【写真②】



南九州市の取組

ふるさと体験学級 茶レンジ隊

心豊かで夢を持った思いやりのあるたくましい青少年を育成するために、郷土の自然や文化について、体験を通し学ぶことのできる「ふるさと体験学級『茶レンジ隊』」を年間10回程度開設し、関係団体と連携して実施しています。

【平成25年度の活動一覧】

期 日	活動内容（連携団体）
4月27日（土）	茶摘み体験（南九州市役所茶業課）
5月25日（土）	地元の特産品を使った料理教室（食生活改善推進員）
7月6日（土） 7日（日）	親子ふれあいキャンプ
7月27日（土）	川であそぼうDAY（青少年地域活動実行委員会）
9月7日（土）	ふるさと畜産体験（南九州市畜産振興会）
10月5日（土）	陶芸体験（川辺焼）
12月26日（木）	しめ縄作り
1月11日（土）	新春たこ作り たこあげ大会（青少年地域活動実行委員会）
1月25日（土）	そば打ち体験
2月22日（土）	匠の技に挑戦!!～蒔絵を学ぼう～



川であそぼうDAY



ふるさと畜産

凜とした文化づくりを目指して

～颯娃文化祭 知覧文化祭 川辺文化祭～

【内容】

南九州市内の文化協会団体及び保育園・各小中学校の文化活動の成果を紹介するとともに、支部間の団体交流の場を設けて文化の振興を図る。

【成果】

各支部ごとの文化祭団体交流等ができ、市民の方々に楽しんでいただいた。

【課題】

舞台の観覧者や出展作品が減少しているため、体験や説明をするコーナーを設け、より多くの市民に興味を持ってもらい、協会への加入や後継者の育成を図りたい。

＜平成25年度文化祭参加者数＞

観覧者数	颯 娃	知 覧	川 辺
舞台発表	1,500人	1,000人	850人
展示発表	1,273人	3,000人	750人



【ハーモニカ演奏（颯娃地域）】



【書道パフォーマンス（川辺地域）】



【日本舞踊（知覧地域）】



指宿市の取組

家庭の教育力の向上

親子キャンプ

「いぶすき親子キャンプ」は、小学1年～4年生までの児童とその親2人1組、計30組が1泊2日のキャンプを体験します。小学校の低・中学年を対象とした事業として、平成25年度から実施しました。主な目的は、少年期の体験活動の機会を提供すること、野外体験活動を通じて、親子ふたりだけの水入らずの機会を作り、家族の絆を深めてもらうことです。

4月に実行委員会を組織し、開催日を8月中旬に決定し、6月の初めに市広報紙と学校へのチラシ配布により参加者を募集しました。当初は1か月の募集期間を想定していましたが、応募者が多く1週間で定員に達しました。

事業プログラムについては、初めての開催ということもあり、青少年研修センターや南喜少年自然の家に視察に行き、各施設で実施されている体験事業を参考にしました。1日目は、ダンボール窯を使ったピザ作り（夕食）、星空観察会、2日目は牛乳パックを使ったホットドック（朝食）、さつまいも収穫体験、青竹を使った流しそうめんと炊き込みご飯（昼食）などを行いました。

初めて取り組むプログラムが多く、段取りに手間取ることや段ボール釜の温度がなかなか上がらないなどのトラブルもありましたが、参加者からは「親子ともに良い経験をさせていただきました」などと概ね好評でした。その一方「プログラムが多く忙しかった」という声も聞かれました。魅力的なプログラム作りとゆとりのある時間配分が来年の課題です。

アンケート結果から「いぶすき親子キャンプが初めてのアウトドア体験だ」という家族が多く、この事業が様々な体験事業や野外活動に取り組むきっかけになればと思います。また、「流しそうめん」などの体験プログラムが子ども会でも実践され、参加者に地区のリーダーとして一翼を担ってもらえればと考えています。



流しそうめんの様子

図書館・読書活動

指宿市には年間約380万人（H23年度）の観光客が訪れます。全国に指宿を発信してくれるかもしれない観光客に図書館として関われることはないものだろうかと考えました。折しも図書館は、時遊館COCCOはしむれと連携して制作した「指宿昔話の紙芝居」を所有しています。

そこで、その紙芝居を観光レンタル自転車（通称いぶりん）の荷台に積みこみ、拍子木を鳴らしながら読み始める活動を始めました。場所は指宿駅前足湯広場です。観光客の方々に足湯にはいりながら地元の指宿弁で語る昔話を聞いていただきます。これは、かなり好評を得ています。ある時には20人余りの韓国の観光客がご覧になり、日本にしかない、この紙芝居文化に興味を示され、語り手の裏側にまで周り感嘆の声をあげて見ていました。言葉は通じなくとも画と声から伝わる言葉のイメージが心を動かしたのか、語り終わると大きな拍手でスタンディングオベーションとなり、足湯広場は一躍国際交流の場と化しました。

読み聞かせのメンバーは、この紙芝居をDVD化した際の声優さんたちがメインです。お話の素材は現在6作品。今年、あと3作品が加わり、このシリーズ全部の9作品が揃います。文章は図書館職員が手がけ、画は地元の画家や若きイラストレーターに依頼しました。声優は地元の子どもや一般市民にもお手伝いをしてもらいました。

地元につながる言語文化・生活文化を指宿の子どもたちに伝えたい、そして観光客にも指宿の歴史を知ってもらいたい、この紙芝居はそんな期待を見事に捉えました。現代は図書館が図書館の中だけに留まる時代ではありません。まちに出てその土地の思いを伝える図書館であり続けたいと思います。



紙芝居の様子

各市の文化財紹介

南さつま市

国指定名勝「坊津」 ぼうのつ

(平成13年1月29日 指定)



リアス式海岸の雄大な景観に彩られた歴史的港町「坊津」は、古くから多くの^{さんごくめいしやうずえ}の人々を魅了してきました。

『三國名勝圖會』などの近世後期の地誌によれば、文禄3年(1594年)に豊臣秀吉と対立して坊津へ配流された京都の公家^{このえのぶすけ} 近衛信輔は、坊津の八つの景観^{ぼうのつはっけい} (坊津八景) を選び、歌を詠んだと伝えられています。坊津の景観は、江戸時代から優れた海岸風景として、地誌や紀行等に紹介されています。

そのうちのひとつ、名勝指定地となった網代の双剣石は、「薩摩 坊ノ浦雙剣石」として、江戸時代の浮世絵師^{うきよえし} 歌川広重の「六十余州名所圖會」にも主景として描かれています。平成13年には、このような文化的背景を有する坊津の景観価値が認められ、名勝「坊津」として国の指定を受けました。

枕崎市

あかほしむねいえ 赤星統家と奥方の墓

赤星統家は菊池氏の支族で肥後の有力な国人領主でした。龍造寺隆信が肥後国に触手を伸ばすと、2人の子を人質に出して降伏しました。しかし、敵対関係にあった隈部親永が龍造寺氏の支援で肥後国での勢力を伸ばしてきたため、龍造寺氏から命じられた佐賀への参陣を渋ったことが原因で、龍造寺氏に預けていた人質(14歳の息子と8歳の娘)を殺害されました。これにより統家は、反龍造寺の旗幟を鮮明にして島津氏の幕下に入り、天正12年の島原合戦(沖田畷の戦い)では、赤装束に縄襷という出で立ちで家来とともに島津軍の先鋒を務めました。この戦いで龍造寺隆信が討たれ、統家は子どもらの恨みを晴らすことはできましたが、以後も島津氏と行動を共にしたことがたたって、豊臣秀吉の九州征伐後に所領を没収されました。その後、島津氏を頼った統家は、鹿篋の喜入氏に預けられたといわれています。統家と家人の墓は本市の桜馬場(桜山)に、奥方と付人の墓は松崎(別府)に存在します。



赤星統家の墓



赤星の奥方の墓

南九州市

高田観音堂の十一面観音像

(市指定有形文化財<美工・彫刻> 平成 24 年 9 月 19 日指定)

十一面観音とは、仏教の信仰対象である観音菩薩のひとつで、11の顔を持つ仏様です。この十一面観音像は、川辺町高田にある観音堂に安置されています。作者は、明治24年～28年にかけて川辺町に滞在した旅の僧侶、吉田知山です。明治時代後半に清水から運んできたという言い伝えがあります。頭髮や衣にみられる、鮮やかな空色の彩色が特徴的です。

吉田知山は、明治28年には清水磨崖仏（県指定文化財）壁面に十一面観音像、阿弥陀如来ほうきょういんとう像、宝篋印塔を彫刻しています。また、知山がソーメン箱を再利用して仏壇を制作したことが、後に川辺地域で仏壇産業が興る契機となりました。川辺地域における近代の仏像彫刻の先駆けとして歴史的価値のある文化財です。



指宿市

無足明神

三国名勝図会に、無足明神という社が紹介されています。俗称をムスドンといい、社殿を持たず古くはマルハゼの古木を御神体とし、海から上がってきた蛇を祀っていると伝えられています。五輪等や石像をはじめとする無足明神にまつわる石造物6個体は、現在もその社地に残されていて、土地の人々に大切に守られています。

この神社には、明治の初めごろまで、魚見岳の谷間から笛太鼓に合せて現れる無足舞という舞を伴う神事がありました。それは、笛太鼓二人、旗持ち三人、剣舞一人、長刀舞一人、鬼神舞四人、足を隠した無足装束一人が、海辺から山を巡って神木のところにきて舞うものです。

三国名勝図会の記述を見ると、江戸時代の島津家領内で行われていた神舞行事に共通する事柄が多く見られます。たとえば、剣舞、長刀舞、四人鬼神舞は、多くの神舞で見られますし、長刀舞一人や鬼神舞四人が笛太鼓を伴って浜下りなどの巡幸に付随するのは良くあることです。

しかし、無足明神の神事で注目されるのは、足を隠した無足装束一人が無足舞という独特な舞を行うことです。無足明神は、海から上がってきた蛇を祀っていると伝えられることから、足を隠した無足装束は、蛇を表していると考えられます。

無足明神は、三国名勝図会で紹介されているほかに薩隅日地理纂考などでも紹介され、昭和32年に刊行された「薩南民俗」のなかでも小川亥三郎氏が報告しています。小川氏はこの報告の中で、蛇の信仰が古代農業神とのかわりがあることを指摘し、マルハゼを神体とする点が指宿市に多いモイドンなどとの関連があることを指摘しています。無足明神に残された石造物は、当時の信仰形態を知る上で、重要な文化財であるといえます。

指宿市文化財保護審議会では現在、社地に残された石造物6個体の調査を行い、文化財として指定するよう手続きを進めています。



無足明神に残された石造物